

空手道について

西東京本部 浜田山支部 内田久貴

2人の息子たちと月心会の門をたたいて6年。この期間、日々の稽古をはじめ、昇級・昇段審査の関東大会、全国大会、そして北海道・函館の大会にも出場させていただきました。その一つひとつが、わが家では良い思い出となりました。

親子とも空手を通して成長させていただけたことを、宗家岡田先生、市川本部長をはじめ、各支部長、諸先輩方、同門の関係者の皆様に改めて御礼申し上げたいと思います。

現在、子らは親子空手を卒業し、私はひとり“親孤”空手を続けています。そこで実感するのは、空手道とは自分を鍛え続ける「生涯稽古」なのだということです。そして道場だけでなく、日常が稽古の場になっています。

たとえば通勤の途中、自分より二回りも大きな体格の人を見かけると、どのように動けば相手の懐に飛び込み、一本取れるのかをいつも考えています。終電を待つホームでは、空手の型の動きをイメージしながら、無意識に手足を軽く動かしている自分がいます。

日々の家事労働でも例外ではありません。食器を洗う際には、気が付くと片足をシンクに載せて前蹴り、横蹴りの姿勢で作業をし、またマンションのベランダで洗濯物を干すときは、四股立ち、騎馬立ち、三戦立ちの姿勢になっています。

これからも、日常を鍛錬の場とし、仲間たちと楽しく、そして自分に厳しく空手道に精進したいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。